Japan Hang & Paragliding Federation ● http://jhf.hangpara.or.jp

JHFREPORT

JHFレポート203号
2013年10月20日発行

2013パラグライディング日本選手権in足尾より。撮影:橋本みさ紀(ウインドダミー)

空の日に:自由な飛行のための自主規制

JHF会長　内田 孝也

9月20日は、毎年「空の日」として国土交通省をはじめ商業航空、スポーツ航空、すべての航空関係者が1年の安全祈願をし、空に関わるものの志を新たにする日です。日本における動力飛行が初めて達成されてから100周年であった2010年発行の記念出版物に、「ハンググライダー・パラグライダーの安全のために」という寄稿をされた阿部郁重先生が、今年の航空功労者表彰で航空亀齢賞を受けられました。その表彰をした一般財団法人日本航空協会も、前身組織の設立から今年でちょうど100年にあたる節目の年でした。

1世紀にわたる航空の歴史を思うとき、その中でハング・パラはどのくらいの期間を共有しているでしょうか。日本に本格的にハンググライダーが普及しだしたのが1976年ですので、37年間のフリーフライトの歴史を持つことになります。太平洋戦争前からの動力飛行の100年と比べ、意外と長いなと思いませんか。この約三分の一世紀の間、日本の空を自由に飛べてきたのは、最初に関係各機関の位置付けや、相互の責任範疇を決めるのに、前述の阿部先生が関わっておられたおかげなのです。

FOR ALL SPORTS OF JAPAN
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

安全を第一に

自他ともに安全であればこそ日々のフライトを楽しむことができる。それはフライヤー全員が認識していることでしょう。しかし事故はゼロになっていません。安全確保への気持ちを新たにして愉しいフライトを。

JHFは、初めから公益社団法人であったわけではありません。当初は愛好者数の規模に合致した「日本航空協会の中の一委員会」でした。しかしその存在を生み出した知恵は、わたしたちにとって特別なものであり、肝に銘じておくべきことなのです。

個人が運行できる新しい航空機が外国から持ち込まれて広がり始めている、という情報を得た当時の運輸省が、当然の対応としてセスナ機のような小型航空機の管理と同様のシステムを適用しようと考えたことは、想像に難くありません。滑走路を必要としないことから、警察も取締りを行う法的根拠に大いに興味があったはずです。

なによりハンググライダーに飛びついたのが、勝手気ままな若者ばかりでしたから世間に疎く、いとも簡単に規制をかけられていた筈です。そこに、優しい大人の視線を持った阿部先生たちがいてくださったおかげで、セールプレーンの状況や諸外国の当局動向をもとに、いまあるJHFのような自主統括機関を新設することで、関係諸機関との合意を得て自由を確保していただけたのです。ハンググライダーが日本に普及し始めて３年間ぐらいの間での大仕事だったと思います。

わたしが会長になってから繰り返し申し上げていることは、フリーフライトを許していただけるよう、社会的責任を果たしていることを目に見えるようにする「自主規制」の遵守です。

前述の航空協会の委員会は、当時の関係機関にハンググライダー活動を自主的に管理できる制度を示し、それを守っていくことを約束しています。安全の確保・他者への責任・透明性の保証の３点をJHFは全国唯一の統括機関として外部に保証できなければなりません。フライヤー登録制度・技能証制度・型式登録制度がそれらを担保します。そして、それでも起きる万一のときのために第三者賠償責任保険の付保があります。

フライヤー登録に伴って行う「フライヤー宣言」は念仏ではありません。阿部先生他の「自由を確保する」ための知恵に心から感謝し、皆さん一人ひとりもフライヤー登録証に記載の宣言を読み直して行動に移すよう、お願いいたします。

「航空亀齢賞」を受賞して　元JHF技術委員会 委員長　阿部 郁重

私は1924年生まれで、この度、一般財団法人日本航空協会から「航空亀齢賞」を受賞することになりました。これも皆様のおかげと深く感謝しております。

私が小学校に入った年に満州事変が起こり、中学校に入った年に中国との戦争が始まり、卒業を目前にして太平洋戦争が始まりました。なぜこのようなつらい悲しい戦争を始めてしまったのか何年もの間考え続けてきましたが、私は、もし戦前の政治家が自分や政党のことではなく本当に国民のことを考えて政治を行っていたら、あの戦争が起こる可能性は非常に低くなったのではないか、と思うようになっています。

中学２年生のとき近くに陸軍の飛行場ができ、私も空を飛びたいと思うようになりました。３年生になって学校にグライダー部ができたのですぐ入りましたが、空を飛ぶ楽しさを覚えた頃に太平洋戦争が始まり、それどころではなくなってしまいました。

終戦後、再びグライダーの練習をしようとしたのですが、航空局の視力の規制が厳しく、それができませんでした。

1970年代に入ると、当時アメリカで盛んになったハンググライダーがわが国にも入ってきて、75年には全国的な組織を作ろうとする動きが起こりました。

航空協会スポーツ航空室長の渡辺敏久さんは７月に「安全対策会議」という形で組織立ち上げに動き始めました。渡辺さんは、グライダーの日本記録を樹立したパイロットでもありますが、グライダーを開発・生産し、FAIにおける日本の代表にもなっていた宮原旭さんとも話し合い、ちょうど「ハンググライダー入門」という本を出していた私に協力の要請が来たわけです。

安全対策会議は有志が月に1回集まったのですが、みんなで自主規制により「空を飛ぶ自由」を確保したいという気持ちで一致していました。この会議の中で私は技術面を担当するようになり、78年に組織がハンググライダー委員会に成長したときに技術専門部会長に、82年にはJHF傘下の技術委員会委員長となって機材の安全基準制定、型式の登録審査、内外の技術・事故情報への対応などの仕事を20年あまり続けることになり、このことが今日の亀齢賞受賞につながったものと思います。

このように長期にわたり大切な仕事をさせていただくことができたのも、JHFの皆様のご理解とご協力のおかげと深く感謝しております。最後になりましたが、皆様の今後の一層の発展を心よりお祈りしております。

航空会館の表彰会場にて、阿部夫妻。

理事互選により内田理事が会長に

新理事会のスタートに伴い、理事の互選により、内田孝也理事が会長に、安田英二郎理事、工藤修二理事が副会長に決まりました。各理事の職務分担は次のとおり（内田はすべて担当）。

予算編成：安田・工藤、渉外・広報・出版：芦川雄一郎、国際技能記章：大沢豊、レジャー航空無線：大沢・芦川、CIVL海外：殿塚裕紀・芦川、普及事業：塩坂邦雄・殿塚・鹿山登、PG競技委員会：大沢・工藤、HG競技委員会：大沢・工藤、補助動力委員会：福永信也・鹿山、教員・スクール事業委員会：塩坂・鹿山、安全性委員会：安田・大沢・芦川・工藤、
制度委員会：安田・工藤、ハングパラ振興委員会：芦川・殿塚・福永

訂正：前号1ページの記事に誤記がありました。理事「福永真也」は、正しくは「福永信也」です。

この1年間の事故報告 [2012年9月～2013年9月]

JHF安全性委員会 委員長　桂　敏之

この１年間でJHFへ13件の事故が報告されました。このうち死亡事故が3件（パラグライディング、モーターパラグライディング、ハンググライディング各１件）あります。また、このJHFレポート制作中の９月21日と22日で２件のパラグライダー死亡事故が報道されています。

以下に、「事故発生日／発生地／天候・風・平均風速～最大風速／事故者の年齢・技能証・経験年数／事故の経過／傷害・被害」の順で15件の概要を掲げます。

No.1　パラグライディング
2012年９月29日／滋賀県
晴れ・穏やか・２～4m/s
50歳・XC証・21年
着陸進入旋回時にフラットスピンに入り、接地寸前に回復するが再び失速し草地に激突／腰椎骨折で重症

No.2　パラグライディング
2012年10月８日／青森県
晴れ・穏やか・1m/s
18歳・A級・１年
教員指導下で高高度フライト着陸進入時の旋回操作から失速、スピン、回復ピッチングで草地へ激突／頭部骨折で重症

No.3　ハンググライディング
2012年11月18日／和歌山県
曇り・やや荒れ気味・４～5m/s
22歳・XC証・４年
ファイナルターン中に翼端が接地しグランドループして砂利の河原へ激突／頭部骨折で重症

No.4　パラグライディング
2012年11月20日／埼玉県
晴れ・やや荒れ気味・３～4m/s
タンデムパイロットは40歳・XC証・４年
スクール講習としてタンデムフライトを行い、緊急ランディング場への着地時にパッセンジャーが水路の盛り土部へ腰から接地／スクール生であるパッセンジャー（A級）が腰椎骨折の重症

No.5　パラグライディング
2013年２月３日／千葉県
快晴・荒れ気味・～10m/s
34歳・教員・16年
強風下の係留浮揚による講習で予想以上に上昇し、サポートの教員が約５m の高さから草地へ落下／胸部など骨折の重症

No.6　ハンググライディング
2013年２月10日／三重県
曇り
教員
不安定な風況となり、B級パイロットがスタンバイ中にランチャー台の上から機体ごと３～4m 下の山林地表へ転落し、サポートしていた教員もこれを止めようとして転落／傷害やその他の損害はなかった。

No.7　パラグライディング
2013年２月12日／埼玉県
曇り・やや荒れ気味・１～3m/s
68歳・P証・８年
着陸進入に失敗し民家の屋根に激突して転落／胸部骨折・死亡

No.8　パラグライディング
2013年５月15日／埼玉県
（風情報不明）
66歳・B級
着陸進入で強風で流されて電線に接触し吊り下がる／負傷はなし。送電線に損害を与え、救出作業に伴い送電を停止させた。

No.9　モーターパラグライディング
2013年５月26日／秋田県
（風情報不明）
49歳・４年
離陸直後に低空で急旋回を行い、翼が潰れて砂浜へ激突／全身打撲で死亡

No.10　ハンググライディング
2013年６月８日／神奈川県
曇り・穏やか・２～4m/s
55歳・P証・20年
高度処理後、フォロー（追い風）側からの低空進入を行い、ランディング場手前の法面にベースバーが接触し、パイロットの体が地面に当たった／腹部損傷で死亡

No.11　パラグライディング
2013年６月８日／新潟県
安定・1m/s
63歳・XC証・17年
エリア内の谷間の送電線に引っかかり約５時間後に関係機関により救出された。事故の様子は大きく報道された／負傷はなし。送電線に損害を与えた。

No.12　パラグライディング
2013年６月16日／愛知県
曇り・3m/s
44歳・XC証・５年
タンデムフライトで着陸進入を誤り、手前へ酷着陸／パッセンジャーが背部打撲で軽症。送電引込線を切断した。

No.13　モーターパラグライディング
2013年６月23日／群馬県
晴れ・穏やか・２～4m/s
42歳・男性・５年
着地時に横風にあおられて転倒し、駐車してあった車を損傷させた／負傷はなし。車両ボディーを損傷させた。

2013年９月に発生した２件の重大事故はさらに調査・報告が待たれますが、現時点では以下の概要が報告されています。

No.14　パラグライディング
2013年９月21日／埼玉県
晴れ・穏やか・３～4m/s
60歳・NP証・４年
着陸進入で高度が高いまま進入し障害物に向かったところでフラットスピンに入り地面に激突／胸部打撲で死亡

No.15　パラグライディング
2013年９月22日／香川県
晴れ・穏やか
53歳
離陸したが着陸場に現れないため同行者らが捜索し、テイクオフの約50～100m下の岩場で発見され、その後死亡が確認された。

以上15件の事故内容を見てみると、やはり着陸時の事故が10件と最も多く、そのうち風が穏やかだったと報告され

ているものが７件あります。以前に目立った乱気流による着陸時の事故は減少し、より的確な気象判断・飛行判断がなされてきていることをうかがわせる半面、着陸場の安全管理やパイロットの着陸進入技術（判断・操作）の向上はまだまだ必要であることを示しています。

着陸場の整備については社会的・経済的に難しい面もありますが、パイロットの着陸技術向上については多くの余地があり、今後さらなる改善が期待されます。

安全実績の改善というと、過去にはレッグストラップやカラビナの付け忘れで重大事故が相次いでいたのが、機材やエリア管理の徹底的な改善（Tバックルやゲットアップといったレッグストラップ付け忘れ防止機構や離着陸場におけるサポート人員の配置と機材チェックの徹底）によって事故がかなり減った例があります。

このことは喜ばしいことですが、まだ完全というわけではなく、レスキューパラシュートのフロントコンテナ装着に伴うレッグストラップ付け忘れ事故（パラグライディング）やハングチェックでカラビナを確認したがフロントバックルやレッグストラップのチェックがなかった脱落事故（ハンググライディング）など、まだ記憶に新しいところです。

さらに、安全面でエリア管理や飛行判断が向上してきたことがうかがえるとは言え、今回の着陸以外の５件の事故は、この点でまだ問題があることを示しています。機材整備やエリア管理・そして飛行判断についても今後なお一層慎重に、より完璧に行っていくことが大切です。

2013年SIVトレーニング

JHF安全性委員会 委員　目黒　敏

2013シーズンは、SIVトレーニングをより広めていくために、従来の一般フライヤー対象のセミナーに加え、教員・助教員がセミナーを行う際の知識などを整理するためという、ふたつの切り口でセミナーを開催しました。

開催場所は高低差500m、湖上空で十分な高度を確保できる日本国内で数少ないエリア、このようなトレーニングに適している長野県大町市・木崎湖フライトパークです。

SIVトレーナーセミナー

2013年7月30日～31日（予備日：8月1日）　参加者：10名（教員7名、助教員3名）

全国でスクールを行っている教員・助教員の皆様を対象に、木崎湖で実際にトレーニングを受けていただきながら、主催するための知識などを整理しました。内容は以下のとおりです。

○SIVコース開催の準備
○木崎湖エリア概要
○トレーニングについて（手順）
○回収
○LTF/ENの認証テストについて（必要に応じて）
○アクロ競技のルール（必要に応じて）
○その他（ハーネスの問題点、誘導音声のトーン、保険など）

7月30日(火)

午前８時、ランディングに集合するが、小雨で雲も低くテイクオフが隠れてしまっていた。そのため、宿泊先ペンション（マウンテンロッジウィズさん）の部屋をお借りし、室内講習を午前中行うことになりました。大画面モニターも用意され、動画によってイメージを深め、用意したテキストについての理解を深めていただきました。

その後、昼前より予報通り天候が回復し、実際のフライトトレーニングを開始。それぞれ４本のフライトをこなし、装備の確認と基本的コラップスを行うことができました。

7月31日（水）

２日目は天候に恵まれ、午前８時からフライト開始。トレーニングのためのステップ、基本的な操作方法とアイデアなど、それぞれに可能な限り有効に時間を使い、Bストール、フルストール、スパイラル、SATなどを行いました。参加者自身のステップアップにもつながったと思います。

終わってみると６～７本ものフライトをこなすことができていました。

自身のフライトエリアを管理している教員の皆さんにとっては、なかなか他のスクールの教員方と顔を合わせる機会も少ないので、この機会に顔見知りになり、様々な情報交換ができ、交流の場としてもこのセミナーを使っていただけたようです。

また、このSIVトレーナーセミナーは、技能証とはまったく関係ないものとなりましたが、将来的には「SIVトレーナー（仮）」などという教員技能証の付帯技能証としての必要性も検討することは意味があると思います。

SIVトレーニング

2013年9月6日～8日　参加者：13名

昨年に引き続き一般パイロットを対象にしたセミナーを３日間の日程で開催しました。北海道から九州まで全国各地から集まっていただけました。

○潰れへの対応～ フロントコラップス（前縁潰し）、フルストールなど
○緊急降下～ Bストール、スパイラルなど
○アクティブ操作～ ローリング、SATなど

以上のように大きく３分野に分けて考え、フライト歴20年以上というパイロットもいらっしゃいましたが、初参加の方がほとんどだったため基礎的な部分の確認から行っていきました。

9月6日（金）

午前７時にランディング集合。フライトの際の注意事項、装備の確認を行い、ブリーフィングの後、早速フライト開始。対称フロントコラップス、非対称フロントコラップス、アクセル使用でのフロントコラップス、Bストール、ローリングなど、各パイロットの技術レベルに応じて行いました。

全員３～６本のフライトをこなすことができました。

フライト終了後、午後７時30分より宿泊先ペンション（マウンテンロッジウィズさん）の部屋をお借りし、本日撮影したビデオで参加者の動作の確認を行いました。やはり、自身のフォーム・動作を知るうえで、ビデオは大きな効果を持っています。

ランディング場から見た木崎湖。右の山からテイクオフ。

非対称フロントコラップス。

フライト毎にアドバイスを実施。

9月7日（土）

午前７時ランディング集合。今日から２日間参加のパイロットも加わり、準備を整えテイクオフへ。前線の影響があるようで雲が低く、時折テイクオフが雲で隠れてしまうときもあったが、タイミングを見ながらフライト。１日目に行ったフロントコラップスなどを復習しながら、回復のためのブレーク操作のタイミングに意識を持って行いました。翼をしっかりと見ながら、どのタイミングで翼の位置を止めるとスムースに通常滑空へ移行できるかを考えていただきました。

４本目のフライトを終えたところで雨が降り始め終了となってしまいました。スパイラルを本日の目標としていたのですが、５本目で行う予定だったため、思いの外早く降り出した雨は残念でした。

その後、午後２時30分より４時までマウンテンロッジウィズさんの部屋をお借りし、ビデオ講習。回復の過程での翼の揺らぎを知っていただき、ストールを避けるためには、どのタイミングで回復動作を入れるべきかを中心に確認していただきました。

9月8日（日）

午前７時ランディング集合の予定でしたが、開催地の大町市に大雨警報が出され、天候回復の可能性が低いため、３日目は中止としました。それぞれ、３日目に課題をもっていましたが、フライトできず残念な結果となりました。

このトレーニング期間も各地のパイロットが共通の目的で集まることで、交流も生まれ情報交換も活発に行われました。Jリーグなどの競技会と同様に、交流の場としてこのような機会をつくっていくことは意味があると感じました。

すべてのパイロットが再確認するべきこと

最近のアクシデントの傾向と今回のSIVトレーニングから、いくつか確認いただきたい知識と技術を６点ほどあげてみます。

○ピッチング、ローリング

ブレークコードによる加速・減速のタイミングを理解すること。

○潰れのパターンを整理

前縁だけの潰れなのか、クラバットを起こしているか早い判断をできること。クラバットの場合は翼端のラインを引き込むことで翼をオープンさせる。

○アクセル使用時のコラップスへの対応

潰れと同時にアクセルを（体育座りをするように）オーバーアクションで戻すこと。

○フルストール

コントロールできていないスパイラルダイブなどからの体勢の回復。フルストールは様々な状況からのリセットの意味。翼とパイロットのポジションに注意し、フルストールからの回復は少しずつブレークコードを戻していくこと。

○ツイスト

ライザーのクロスしている部分より上（翼寄り）を握り、開くことで通常状態へ回復させること。最近のアクシデントでは片翼（50%以上）潰れからツイストしてしまい、コントロールできないスパイラルダイブへ入るということが報告されている。

○レスキューパラシュート

パラシュートを開傘し着水（地）の後、風をはらんでしまうことで引きずられてしまう。（山沈などで木にかかってしまった場合以外では）フリーフライトでレスキューパラシュートを投げなくてはいけない場面では、たいてい風もそれなりに吹いている時が多く、着地後もパラシュートの処理をどのようにするべきか方法を知ることは必要。

まとめ

年に１～２度程度は、このようなSIVトレーニングを受けることで正確なリカバリー、そしてタフなメンタルが育てられると思います。動作を整理し、万が一のアクシデントにしっかりと対応できることで、怪我・重大事故を減らすことに少なからずつながるのではないでしょうか?

すべての参加者に、また次回も参加したいと言っていただきました。これはその必要性が理解されたということだと思います。

すべてのパイロット、教員・助教員の方にも、SIVトレーニングがただ難しいことではないと理解していただいて、整った環境の中であれば無理なく行えるものだと、広まっていくことを（自分としては）望みます。

兵庫県・大阪府連盟からお知らせ

11月15日（金）、大阪市舞洲スポーツアイランドで、大阪府フライヤー連盟・兵庫県フライヤー連盟合同の教員更新講習会を開催します。詳細、問い合わせは兵庫県連盟まで。

16日（土）は大阪府連盟主催で大阪フライヤーズミィーティングを大阪市舞洲スポーツアイランドにて開催します。また、17日（日）は兵庫県連盟主催で兵庫県フライトフェスティバルを市島で開催します。ぜひご参加を!

JHFから2014年カレンダー

2014年のJHFカレンダー用写真の募集に50作品のご応募をいただきました。ありがとうございます。

作品の中から審査員が選んだ写真を使用して、カレンダーを作成します。できあがったらJHFウェブサイト等でご案内します。

全日競技成立、100名がゴール。

2013ハンググライディング日本選手権in池田山　報告:大会実行委員長　増田 憲治

今年のハンググライディング日本選手権は、岐阜県池田山エリアでの初開催となった。例年の池田山大会では、地元のアピ株式会社の野々垣会長様から賞金を協賛いただいているが、今年は、日本選手権ボーナスで総額150万円に増額していただいた。大会２週間前から、雨が降らず、乾燥した状態で競技初日を迎えることとなった。

鈴木博司選手、テイクオフ。最終日に鮮やかな逆転、二度目の日本一をつかんだ。

□Task1（8月14日）

池田温泉スタート、小島山経由で平地の大野町に出る61kmのタスク。池田山周辺では積雲ありのサーマルトップ1,600m、平地は積雲なしの1,000m。厳しい条件ではあったが、63人中６名がゴールした。トップは、Second Start、Fastest timeの鈴木博司選手。

□Task2（8月15日）

初日よりも視程が悪く、サーマルトップも200m低くなる予報。前半の山の往復を昨日より増やし、ゴール率が上がるように57kmのタスクをセット。実際、山は積雲ありサーマルトップ1,400m、平地は積雲なしの1,100m。結果、66名中20名がゴールした。トップはSecond Start、First Goal、Fastest timeの大門浩二選手。

□Task3（8月16日）

前日と似た条件で、南風が１～2m/s強まる予報のため、初日、２日目と同じような、前半は山の往復、後半は平地に出る65kmのタスクをセット。実際、山は積雲ありサーマルトップ1,300m、平地も積雲あり1,100m。心配された南風は、結局吹かず。また、平地のタスクでは、大野町の南側のサーマルポイントを通過するように設定したため、65名中37名の大量ゴールとなった。トップは、First Start、First Goal、Fastest timeの平林和行選手。1,000点満点。

□Task4（8月17日）

前日に似た条件。海風（南風）が入るかもしれないとの予報あり。また、昨日の大量ゴールから、難易度を上げた73kmのタスクをセット。実際は、山は積雲ありサーマルトップ1,400m、平地も積雲あり1,400m。しかし、早めに海風が入り、平地の雲が崩壊し、ゴールは69人中4名のみとなった。平林選手、加藤実選手は、First Start、First Goal（ゴールは同時）、Fastest timeだが、Leading Pointsの差で加藤選手が１点差でトップ。ここまで、デイリートップが４日間、日替わりで４名、総合も１位の砂間隆司選手から８位板垣直樹選手までが350点差の僅差であり、最終日が非常に楽しみな展開になった。

□Task5（8月18日）

前日同様に、海風が入る可能性があるため、前日の反省から後半のヘッドウィンドレグを短め、大野町のサーマルポイントが重なるように62キロのタスクをセット。実際は、山は積雲ありサーマルトップ1,200m、平地も積雲あり1,400m。海風は入らず、サーマルも良く、63人中33名の大量ゴールとなった。トップは、First Start、First Goal、Fastest timeの鈴木博司選手。1,000点満点。

□まとめ

今大会は、気象条件に恵まれ、大会期間中、全日程成立した。ゴールは毎日（5日間ゴール人数合計100）、Day Qualityの合計が5.0となった。

現地トレーニングの成果を見せた磯本容子選手。

選手権者を中央に。総合1～6位・女子1～3位。

5日間でデイクォリティ5。選手もスタッフもお疲れさま。

日本チャンピオンに輝いたのは、最終日1,000点で２位から逆転した地元の鈴木博司選手。また、女子の部では、約2週間前から現地入りし、トレーニングを積んだ磯本選手が栄冠を手にした。

［総合］
1位　鈴木　博司　　岐阜県
2位　大門　浩二　　茨城県
3位　加藤　　実　　愛知県
［女子］
1位　礒本　容子　　和歌山県
2位　野尻　知里　　茨城県
3位　鈴木　皓子　　大阪府

日本選手権者から

□鈴木　博司

今年の日本選手権は好天に恵まれ、5日間毎日フライトができ、しかも連日好条件という素晴らしい大会になりました。このような大会で、しかもホームエリアの池田山で優勝することができ心から嬉しく思います。

日本選手権者になれたのは15年前の1998年以来２度目。若い頃は、大会で良い飛びをする日はあってもなかなか勝つことができないことも多く悩んだ時期もありましたが、今回の優勝は自分自身本当の意味での「強さ」が身についてきたのではないかと実感できるものでした。特に最終日のフライトでは、優勝を意識しながら冷静で攻めのフライトができたことが大きな自信になりました。

今後の目標は、次の世界選手権で個人、チームともに表彰台に乗ること。今大会の結果に甘んじることなく、更なる努力と準備をしていきたいと思います。また微力ながら日本チームの実力向上の手助けもできればと考えています。

最後に、今大会の準備運営をしていただきました役員の方々、また協賛各社様に心より御礼申し上げます。

□礒本　容子

８月２日から現地入りし総合トップ10入りを目標に大会に挑みました。Day Quality【5】という素晴らしいコンディションの中、全日スタートが悪く、結果は総合13位と振るいませんでしたが、４日目以降ずっと見えなかった新たな世界が広がり、私にとって重要なターニングポイントになる大会となりました。その糸口になったのは、今回長期サポートくださった憧れのフライヤーAさんの毎日掛けてくださるお言葉でした。

また、昨年１年間の長いスランプから脱せられたのは、スペシャリスト鈴木博司さん、鈴木樹子さん、大沼浩さんの、的確なアドバイスと機体チューニング、サポートのお陰だと思っています。

表彰式では、応援してくださった方々への感謝の思いと、女子優勝の安堵感、そして昨年１年間のスランプを経験したからこそ見えて来た新しい世界への期待で感極まってしまいました。今までで最も感慨深く感動的な表彰式となりました。お力添えくださった方々に感謝です。これからも目標をしっかりと立て、夢に向かって邁進して行きたいと思います。

最後になりましたが、大会開催にご尽力いただいた方々、本当にありがとうございました。

フランスチーム、圧勝。

第13回FAIパラグライディング世界選手権　　報告:チームリーダー　岡　芳樹

第13回目となる今年のパラグライディングXC（アキュラシー競技と区別するためにXCと称している）世界選手権は、７月の13日から26日までブルガリアのソポトで開催された。ソポトは首都ソフィアの東約100kmにあり、結構これまでも国際大会を開催しており日本の選手にもなじみのあるエリアだ。テイクオフは東西に延びるバルカン山脈の南斜面にあり、テイクオフの前は広い平野と、

テイクオフでのタスクブリーフィング。前方に大きな平野が広がり、10km先にやや低い山脈がある。

人気だったチームシャツ。気合い十分のデザイン。

10km先にバルカン山脈より高度の低い山脈がある、見た目飛びやすそうな地形。荒れ荒れの岩山でないところが、日本人好みと思われる。日本からはチームメンバー（チームランキングをつけるための国代表選手）として、呉本、上山、成山、中川、そして女子の伊藤の5名。それに個人戦を戦う女子の平木とチームリーダーの岡を加えた７名の選手団。

ちょっとだけ時間の余裕のある呉本、中川、岡の３名が、現地のレジストレーションの３日前の真夜中に現地に入る。２日遅れてレジストレーションの前日に残

東西に延びるパルカン山脈の南斜面にあるテイクオフから、世界一を競うガーグルを見る。

りの４選手が到着した。今回のエントリー費には、宿泊費も含まれていたのだが、オーガナイザーが手配している宿泊施設はドミトリーのような大部屋とのこともあって、日本チームとして、大会本部近くのゲストハウスを借り切った。キッチン設備もあり、洗濯機もあり非常に快適な宿であった（オーナーが全く英語を話せないのにはチョット困ったが）。ちなみに宿泊費も２人１部屋で１泊2,500円と格安。町には日本のコンビニに毛の生えたような内容だがスーパーもあり、たいていの食料品は揃う（生鮮野菜はあまりないが）。コメも格安で売っていた。

上山太郎選手、ゴール。成立タスク5本は残念。

今回200ボルトの炊飯器を日本から持参したが大変重宝した。町内には6、7軒のレストランがあり暇がないときは外食をしたが、ビール代を入れても１食800円程度。非常に過ごしやすいエリアであった。

一方、競技のほうだが、参加国は38ヶ国、参加選手は146名（うち女子14名）。成立したタスクは５本。全て、山脈沿いを東西に移動したのち南の対岸に渡りソポト近くに戻るタイプで、山岳と平野を組み合わせ、総合的な飛びを試すものであった。タスク距離は、74.2km（ゴール47名）、70.2km（ゴール120名）、117.1km（ゴール62名）、121.22km（ゴール108名）、128.4km（ゴール105名）と、すべて70km超、しかも100km超も３本と素晴らしい結果であった。いかんせん成立本数が大会日数12日に対し５本というのはいささか少ないように感じたのは私だけではないと思う。

タスクを重ねるごとに慣れも手伝って、チームとして調子を上げていたわが日本チームは、初日のノーゴールが最後までひびき、キャッチアップができず、チームとしては38ヶ国中15位に終わって

しまった。個人でも呉本選手の総合11位、上山選手の24位が光っただけで終わってしまったのが残念であった。

一方チーム優勝を果たしたフランスは、個人総合でも１位にジェレミー・ラジャー、２位にシャルル・カゾーと２人も表彰台に乗り、惜しくも最終日に5kmショートして女子優勝を逃して２位に甘んじた福岡聖子と、断トツの結果を残した。昨年のヨーロッパ選手権では散々の結果であっただけに、この変わりようは驚きだ。環境が違いすぎるとはいえ、国内でのJリーグをもっと活性化し、少しでも近づきたいと思う。

最後になりましたが、サポート応援をしていただいたフライヤーおよびJHFの皆様に、心から感謝いたします。

［総合］
1位　ジェレミー・ラジャー　フランス
2位　シャルル・カゾー　フランス
3位　ダヴィデ・カセッタ　イタリア
11位　呉本　圭樹
24位　上山　太郎
92位　平木　啓子
122位　中川　喜昭
130位　伊藤　弥生
143位　成山　基義

［女子］
1位　クラウディア・ブルガコフ　ポーランド
2位　福岡　聖子　フランス
3位　ニコル・フェデレ　イタリア
6位　平木　啓子
11位　伊藤　弥生

［チーム］
1位　フランス
2位　イタリア
3位　ヴェネズエラ
15位　日本

「第2のオリンピック」に参加して。

World Games 2013 CALI　　報告:古賀 光晴

7月25日から8月4日まで開催されたワールドゲームズのエアスポーツ部門、パラグライディングのアキュラシー競技に参加しました。

まず、ワールドゲームズとは何か？　これを少し解説します。

ワールドゲームズとは「第２のオリンピック」ともいわれ、国際的トップアスリートによる総合競技大会で、オリンピック競技の種目に採用されていないスポーツの競技を行うものです。国際ワールドゲームズ協会主催、国際オリンピック委員会（IOC）後援で４年に一度、夏季オリンピック競技大会の翌年に開催されます。世界最高レベルという基準で各競技の国際スポーツ連盟（エアスポーツはFAI）によって選ばれた選手たちが、馴染みの深いスポーツから目新しいスポーツまで、約10日間にわたって熱戦を繰り広げます。今回は120ヵ国・地域から約4,000名の選手が参加、日本からはエアスポーツを含む18競技に約80名が参加しました。（2001年には日本の秋田で開催されました。知っていましたか？　私は知りませんでした。）

今回は、南米コロンビアのカリという都市で行われました。今年1月にPWCスーパーファイナルが行われた場所から100kmほど南で、ほぼ赤道直下です。30競技が実施され、相撲や空手も含まれていました。

今大会のエアスポーツ部門の競技は「キャノピーパイロッティング（以後CP）」と「パラアキュラシー」が行われま

ワールドランキング上位から選抜された選手、29名が参加。着陸精度を競った。

空軍基地の滑走路脇、キャノピーパイロッティングとパラアキュラシーの会場。

した。会場は両競技とも、カリ市内のコロンビア空軍基地の滑走路脇でした。仮設観客席が設けられ、その前にパラのターゲットとCPのフィールドがこしらえてありました。

CPのフィールドは、20m×60m、深さ50cmほどの池と、10m×70mほどの砂地でできていました。CP競技とは、上空の飛行機からジャンプして滑空型のパラシュートを開き、着地前にスパイラルで地面に向かって加速し、池に一旦足をつけてから砂地方向へ飛んでいく競技です。100km/h以上で地面に向かって降下して来る様は、圧巻です。十分観客が楽しめる競技になっています。

さて、パラアキュラシーですが、今大会の選手はFAI CIVLアキュラシーワールドランキングの上位から順に選抜され、29人が参加しました。競技日は8月1日から4日間。CPと競技時間を交互に行うため、CPの時間帯は暇を持て余していました。競技自体は、トーイングのアキュラシー大会で特に変わったことはありませんでした。荒れた条件でミスする選手も多かったですが、結果はやはり実力者が上位に並びました。

競技最終日が閉会式の日だったので閉会式に参加できました。最終日まで残っていた1000人以上の選手と100人以上のボランティアスタッフが、超満員のスタジアムに入場します。観客はそれだけで大盛り上がりです。さすが南米、熱いです。有名人の歌やダンスで更にヒートアップし、熱狂しどうしです。サッカーの試合で暴動が起きるのもわかる気がしました。

今回、こんな大規模な大会に参加できてとても光栄に思います。次回2017年のポーランド・ワルシャワ大会でパラアキュラシー競技が実施されるかどうかは2014年に決まるようです。次回も参加できるよう、競技の実力を伸ばしたいと思います。

スタジアム満杯の観客が大盛り上がりの閉会式。

閉会式の古賀光晴選手、会心の笑み（?）。

［総合］
1位　Matjaz Feraric　スロヴェニア
2位　Tomas Lednik　チェコ
3位　Tanapat Luangiam　タイ
21位　古賀　光晴

［女子］
1位　Jolanta Romanenko　リトアニア
2位　Nunnapat Phuchong　タイ
3位　Milica Marinkovic　セルビア

次につなぐチーム5位。

第7回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権　　報告:チームリーダー　岡　芳樹

第7回PGアキュラシー世界選手権がボスニアヘルツェゴビナの首都サラエヴォ郊外にあるビエラスニカ山で8月17日から25日の日程で開催された。この山はスキー場で、29年前に冬季オリンピックが開催された由緒ある場所でもある。今回の世界選手権は、夏休み真っ只中ということもあって、PGスクールのオーナーあるいはインストラクターでもある日本のトップパイロットが2名参加できなかったこともあり、国際大会の経験者3名、未経験者4名のチーム編成で参戦した。参加した選手は、男子では岡、横井、古賀、吉富、古田の5名。女子は伊藤、内田の2名。計7名のフルチームだ。

開会式を前に日本チーム集合。

18ヶ国から79名の選手が参加。強豪の中国は2名のみ。インドネシアは全く参戦せず。残念ではあるが、チーム戦にとっては朗報であった。

数日前に現地入りしていた古賀選手を除く6名は、日本のローカル空港よりちっぽけなサラエヴォ空港に、エントリー受付の前日に到着した。ロストバゲージもなく順調にオーガナイザーの手配したワーゲンのバスに乗り、1時間ほどで大

スキー場に設けられたランディングゾーン（写真中央やや下）を俯瞰する。

総合トップ3。

女子トップ3。

会会場に到着。今回の宿舎で大会本部も設置されているホテルにチェックイン。部屋割りをしたのち昼食を済ませて、早速トレーニングフライトに出かける。午後早めの時間ではサーマルも活発でかなり難しいコンディションであったが、日が傾くにしたがってサーマルも弱くなり、良い練習ができた。

8月17日はエントリー受付をしたのち練習フライト。16時過ぎにバスでサラエヴォ市内に移動。バスから降りて、国別に市内の広場まで行進。行進した道は観光客が多い目抜き通りで、観光客は何の行進かと思案げであった。エレキヴァイオリンの演奏の後、開会式が始まる。1時間弱と割とコンパクトな開会式であった。その後レストランに移動し、ウエルカムディナー。ホテルに帰ったのは11時前であった。

いよいよ明日から競技が始まる。

8月18日から24日の7日間の競技日で全く飛べなかった（飛ばなかった）日は、オーガナイザーのセットしたラフティングツアーに行った日と大会最終日の2日間。5日間で7ラウンドと飛べた日数の割にラウンドは多くなかった。やはり大会前から懸念された厳しいサーマルコンディションとサンダーストームに翻弄された感じだ。12ラウンド成立も期待されただけに残念であった。日本チームとしては、第1ラウンドでは国別3位と善戦し表彰台もありかと思われたが、ラウンドを重ねるごとに順位を落とし、第4ラウンドで5位になった後、挽回することはできなかった。最古参の岡選手が全く振るわなかったことが響いた。それでも、個人戦では、初参加となる吉富選手が総合16位と健闘し、日本チームのトップとなったこと、初めて大会でパッドを踏んだ（それも世界選手権で）伊藤選手、チーム成績に貢献するラウンドがあった内田選手と、今後の国内リーグの活性化にとって明るいニュースだ。

ターゲット中心のパッドを狙って……。

チーム優勝のチェコ。

まだ比較的新しいアキュラシー競技は、誰にでもチャンスがあり、国際大会への日本チームメンバーになることも夢ではない。今後の若手選手の参入を大いに期待したい。ちなみに、次回第8回アキュラシー世界選手権は、インドネシアで2015年8月に開催される。

最後になりましたが、応援サポートをしていただいたフライヤー、JHFの皆様に感謝いたします。今後もさらなる応援サポートをお願いいたします。

［総合］
1位　シェン・グアン・キアン　中国
2位　ヤカ・ゴレンチ　スロベニア
3位　トマス・レデニク　チェコ
16位　吉富　周助
18位　古賀　光晴
21位　横井　清順
47位　岡　芳樹
56位　伊藤　まり子
60位　古田　岳史
67位　内田　薫

［女子］
1位　メリツア・マリンコヴィッチ　セルビア
2位　リマンテ・ヴェルビライテ　リトアニア
3位　ヨランタ・ラマネンコ　リトアニア
7位　伊藤　まり子
13位　内田　薫

［チーム］
1位　チェコ
2位　ブルガリア
3位　セルビア
5位　日本

足尾のポテンシャルを信じて。

2013パラグライディング日本選手権in足尾　報告:大会実行委員長　板垣 直樹

毎年、茨城県足尾エリアでは幾つかの大会を開催しています。

ハンググライディングシリーズ(EJC)、NASA Student CUP(NASAS)、パラグライディング学生選手権、XCチャレンジ、パラグライディングJリーグ(足尾SKY　GRNDPRIX)等です。

当初、今年の日本選手権を足尾エリアで開催する予定はありませんでした。急遽決まった一大イベントは、通常のスクール業務に加えクラブハウスの引っ越し等が重なり、何かと忙しく準備不足のままで当日を迎えました。

しかし、この足尾エリアのポテンシャルで、飛べさえすれば何とかなる!っという気持ちで乗り切りました。

9月はまだ日照時間も充分で、一日の寒暖の差もありサーマルもそこそこ良く、コンディション的には台風さえ当たらなければJリーグの開催にはかなり適しています。田んぼの刈り取りも始まっているのでランディングも心配ありません。

今回は初めてこの時期の開催で、さらに初めて足尾ハングテイクオフだけを使った大会となり、自然の条件以外で心配な部分も多々ありました。足尾ハングテイクオフは東にも西にも飛べますが、西は1機ずつしか出られないランチャー台なので、プレ大会無しのぶっつけ本番だったためです。

□1日目(9月20日)

初日はまさに心配していた西風での競技開始となった。西は気温の上昇が東より遅くサーマルの発生も1～2時間遅くなり最初のひと上げが難しい!という特徴がある。

そんな不安もあり、タスクはエラップスタイムのTO—P57黒羽ニコンゴールの65km。

しかし、さすがは日選の選手達、ゲートオープン後、誰一人ボムアウトも出ず全員がしっかり上げていく。途中、風が止み東に飛んだりまた西に戻ったり、最終的にしっかりとした東風が入ったが、飛び出し辛い風の中で勝機を分けたのはテイクオフのタイミングだった。早め勝負に出たグループの距離が伸びたが、誰一人ゴールまで届かず。武貞の54.9kmが初日のトップとなる。

□2日目(9月21日)

続く2日目もテイクオフの風は移ろいやすく、西メインでゲートオープンするものの、途中で東に移り、また西になり、後半の東で安定するまで選手にとっては悩ましい風だった。

タスクはレースでTO—L01(メインランディング)—P04(燕鉄塔)—P20(サル公園)—L11(烏山ゴール)の57.2km。

東風の入りが昨日より若干早く、ほぼ全員がスタート前にテイクオフするが、空中のスタートタイムに間に合ったのは半分の30人程。

山沿いのレースで抜け出した成山が高峰から真っ直ぐ雲の下を行くが、若手の川上が少し東側のコースを中層の強めの南に乗ってトップでゴールを決めた。その後、続々と選手達がゴールになだれ込み、半数近い27人の大量ゴールとなった。

□3日目(9月22日)

快晴で東風の絶好の競技日和だ。タスクはレースでTO—L01(メインランディング)—P20(サル公園)—P04(燕鉄塔)—P61(ホテルリムジン)—P09(五差路)—L05(関城ゴール)の45.6km。

気象的には昨日までとは異なり、下層から中層までは減率が良く、早い時間から雲もでき、サーマルは活発だ!

しかし午後から強い北東気流が入り込むと、サーマルは一気に沈静化し山沿いのサーマルはリッジ風にうって変わる条件だ。

テイクオフの風も良く多くの選手が一斉にスタートを切りレースは始まった。トップ集団が一往復目を終え、強い北東気流のコンバージェンスラインが最終パイロンのP09まで迫ってきた。高めに折り返した選手たちは易々とその雲底につけ、残り約25kmのグライド勝負になる。

盆地の西側には北東気流の回り込みによるコンバージェンスがゴールに向けて一直線に伸びている!　低めに走る花田、それを高めに追う植田、さらにしっかりと上げ切り追い上げ勝負に出る選手達。

この勝負を制したのは、昨日二番手で苦杯を嘗めた成山だ。成山は先を急ぎ低くなった2人をゴール手前で追い越し、2位以下に2分以上の差をつけトップゴールを飾った。

3日目は距離こそ短めだが、厳しいコンディションの中、16名の選手がゴールを祝った。

□4日目(9月23日)

最終日は予報通り、強風の曇り空。わずかな望みを託し登頂するが、競技を

総合1位～6位。安定した強さで植田が日本一に。

スポーツクラス総合1位～6位。

女子1位～3位。平木は総合7位の成績だった。

スポーツクラス女子1位～3位。

行える条件にはならず、無念のキャンセルで４日間の日本選手権の幕を閉じることとなった。

優勝はしっかりと自分の飛びを３本まとめ、安定した強さを発揮した植田。女子優勝はレースでそのスピードを発揮した平木。

大きな事故や１人の怪我人もなく無事大会を飛びきった選手全員が経験値を増し、技術も増す良い大会だったと私は感じています。

選手の皆様、関係者の皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。そして応援してくださった皆様に感謝します。

［総合］
1位　植田　真吾
2位　多賀　純一
3位　成山　基義
4位　武貞　伸明
5位　山口　　翔
6位　廣川　靖晃
［女子］
1位　平木　啓子
2位　伊藤　弥生
3位　井川　絵美
［スポーツクラス総合］
1位　村上　修一
2位　井川　絵美
3位　関根　靖明
［スポーツクラス女子］
1位　井川　絵美
2位　中目　みどり
3位　橋本　由美

アキュラシー日本選手権速報

９月28日（土）・29日（日）、山形県南陽市において2013パラグライディングアキュラシー日本選手権を開催。横井清順（静岡）が日本選手権者に、東武瑞穂（千葉）が女子日本選手権者に決定。ハンディキャップクラス１位は伊藤まり子（愛知）、ルーキークラス１位は臼井紀人（神奈川）でした。

第36回鳥人間コンテスト　報告:山本　貢

夏の琵琶湖の恒例行事、JHFも協賛している「鳥人間コンテスト」を、今年も手伝わせていただきましたので、その様子をレポートいたします。

まずは人力プロペラタイムトライアル部門。今回は８チームの参加がありましたが、年々レベルが上がってきており、今後の進化が楽しみな種目でもあります。

タイムトライアルは折り返しコースのタイムを競いますが、この競技で勝つためには、飛行速度をできるだけ速くするのは当然ですが、折り返しの旋回がどれだけスムーズに行えるかということが、もっとも重要な要素!

次々とテイクオフしていく人力機たち。みなそれぞれにタイムを出すために工夫が凝らされていますが、やはり、「旋回」という大関門を持ったこの種目。実際はゴールまでたどり着ける機体の方が少ない…。そんな中、驚異的なタイムでゴールしたのは、このクラス最強の「Team'F'」。

彼らの機体の最大の特徴は、なんといっても翼端全動型のエルロンを持っていることです。この機構は素晴らしいもので、実機への応用も考えた方が良いくらいのもの。見事なまでに機体を意のままに操っていました。

続いては滑空機部門。

次々と機体は飛んで行きますが、なかなか記録が出ない…。そんな中、ちょっと風変わりな機体が…。ペットボトルを横っ腹につけた、番組側が企画した新型グライダー。

「どうなるか…。」

観客が固唾をのんで見守る中ペットボトル噴射!…してみると、予想以上に推力が強すぎて翼が下に折れてしまった!

今回は番組企画として「人力だけで空を飛ぶ」という鳥人間コンテストのルールを無視しながらも未来の鳥人間の可能性を探る特別フライトでしたが、ペットボトル推力の強さを証明した、将来的な可能性を見せてくれたフライトであったと思っています。

滑空機部門最後のフライトは、おなじみ「みたかもばら+神奈川工科大学」。もともと滑空機部門最強だった、みたかもばらチームの技術を神奈川工科大学が受け継ぎ、パイロットだけが、そのまま以前と同じ大木氏が引き継いだチームです。

当たり前というか、難なくというか、やはり大木氏操縦するグライダーは一番の飛距離を記録し、あっけなく滑空機部門の優勝をさらいます。

最後は鳥人間一番の見せどころ、人力飛行機ディスタンス部門。老舗の日大理工が一番にフライトしますが、意外に距離が伸びない…。そのあとも各チームがフライトするが意外に距離は伸びていかない。

ここで東京工業大学「Meister」が根性を見せて20キロ以上のフライトに成功します。残るは優勝候補の東北大学「Windnauts」のみ…。

しかし、フライトするもテイクオフ時に尾翼をプラットフォームにひっかけたのが原因と思われますが（現在調査中）、まさかの墜落…。彼らは入念なテストフライトをして完璧な機体で参加しているはずのチームだったので、これは意外な結果…。残念でならないです。

今回の人力ディスタンス部門では、もう一つ大きな出来事がありました。

それは、無尾翼人力機がその飛行に成功したこと。私が記憶する限り、無尾翼の人力機がちゃんと飛行したのは、この機体が最初だと思います。

チームは大阪大学albatross。無尾翼機は軽くできる利点はあるものの、その安定性や操縦性を確保することは難しいとされていますが、彼らは見事にそれらをクリアし、美しいフライトを成し遂げました。

もちろんこの機体には、ユニークな機体で空を飛ぶことに果敢にチャレンジしたチームに贈られる審査員特別賞が与えられました。

琵琶湖岸のプラットホームから湖上へと飛び出す。

県連だより

■国体デモスポでアキュラシー
東京都ハング・パラグライディング連盟

国体の本大会としては54年目、全国障害者スポーツ大会としては初めて東京で開催される、第68回国民体育大会は「スポーツ祭東京2013」と銘打たれ、正式種目の総合開会式が９月28日（日）に調布市の味の素スタジアムで挙行されました。この東京国体における「デモンストレーションとしてのスポーツ行事」のハング・パラグライディング競技会が、会期に先立ち９月７日（土）に大田区六郷の区民広場において盛大に開催されました。大田区では５種目に及ぶ開催種目を担当し、その先頭を切って、パラ・アキュラシー大会とハング無料体験会を実施しました。

開始式に来場いただいた大田区実行委員会会長の松原区長も、山では見たことのあるパラグライダーも東京で飛ぶ姿を見られるのは大変珍しいと感激のご様子。区のスタッフの皆さんには、ハング体験もしていただきました。長い準備の末の本番皮切りの行事ですから、印象も強く残ったと思います。

ハンググライダーでフライト体験を。

35選手全員が3ラウンドをフライトできた。

お天気の方は、連日雷雨が発生する不安定な状況から落ち着きを取り戻したばかりの、降るか降らないか紙一重の曇り空。安全なトーイングとターゲット狙いのためには、悪くない条件です。35名の選手は、マシン２セットによるトーレーンでひっきりなしに引き上げられます。途中風向きや機器類の不調による進行遅れが心配されましたが、きっちり全員が3本の競技を完了し、ワーストワンを切り捨てて順位が決定しました。優勝は、切り捨てなくても３フライトの平均ポイントが４センチという東武瑞穂さん。多くの観客にもアピールできました。

体験会の方は、事前申し込み制だったので、会場で見て乗りたいという人には残念な思いをさせてしまいました。セーフティートーシステムによるフライト体験は、すぐそばで見たパラのフライトの記憶と共に、きっと子供たちにいつか自分の力で飛んでみたい、という夢を持ってもらえたと思います。

2006年に東京都からお声がかかって以来、約７年かけて準備を進めてきました。実現にあたって、多くの皆さんのご協力ご支援をいただきました。会場を受け入れていただいた大田区はもちろん、はるばる東北や京都からも応援に駆け付けていただきました。参加してくれた皆さんも含め、関係するすべての方々および諸機関に、この場をお借りして感謝の意を表させていただきます。

応援に駆けつけた「ゆりーと」と入賞者たち。

会場には来年2014年の長崎国体に向け、大村市からも視察に見えていました。今回の経験が役に立てたらと思います。東京都連は後に続く地域での開催を積極的に応援してゆきたいと思います。

［パラ・アキュラシー上位選手］

１位	東武	瑞穂
２位	和田	浩二
３位	塚原	隆信
４位	川村	眞
５位	高橋	誠
６位	岡	芳樹

来賓・参加者・スタッフ全員で国体デモスポ競技会の成立を祝って。

学連ニュース

■2013年鳥取砂丘合宿報告

開催地：鳥取砂丘

日程：2013年９月３日～９月６日

台風の影が見え隠れし、合宿前半の練習が危ぶまれる中、合宿開会の日を迎えることとなりました。今年で21回目を迎える砂丘合宿の初日は、生憎の雨のため、鳥取砂丘での練習を断念し福部町公民館にて安全講習会を行いました。話を伺う中で、学生達の中に、安全は自分たちで確保するという意識が培われているようでした。午後になっても天候回復の兆しはなく、安全講習会の後、解散となりました。

２日目、各地に大きな被害をもたらした台風は鳥取にも大きく及び、鳥取県内のあちこちで避難勧告が出る事態となりました。初日に使用した福部町周辺は冠水し、公民館は避難場所となりました。代わりの場所として、急遽河原町公民館を使わせていただけることとなり、そちらで座学を行いました。雨脚は弱まる気配はなく、参加者全員を収容する施設の数は限られており、宿泊所周辺の土砂崩れの可能性も考えられたため、一時は合宿の続行自体が困難となりました。午後になって雨が弱まる気配を見せ、何とか合宿を続行することができました。座学の後には、砂丘事務所の方のご指導のもと、参加者全員で鳥取砂丘の除草作業を行いました。

合宿前半降り続いた雨もようやく収まり、３日目は朝から鳥取砂丘で練習を行うことができました。午後からは強風となりましたが、鳥取砂丘の安定した海風の中、初日・２日目と練習できなかった憂さを吹き飛ばすかのように、参加者全員が精力的に練習に取り組んでいました。また、３日目の夜にはレセプションを行い、全国の学生同士の交流が見られました。

最終日も３日目と同様に天候に恵まれましたが、午後からは強風となり、パラは練習が難しい条件となったため、パラの参加者に対してハングの体験を行いました。ここでは、普段お互いに関わることの少ないパラ・ハングの学生同士が一緒になり体験を行うことで、飛ぶ道具は違えども、同じ空を飛ぶ仲間同士という意識を培うことができていました。

夕方になり風が弱まった頃には、各団体対抗のミニゲームを行いました。各団体から代表者を選出し、トーナメント形式で勝敗を競わせました。既に山飛びをしている先輩同士が競い合う姿を見ることが、初飛びを済ませていないフライヤーにとってのよい刺激となっていました。

今回も青森から山口に至るまで、広くハング・パラの学生が鳥取砂丘に参加していました。日本各地のハング・パラ両者の学生フライヤーが共に参加するイベントで、これほどまでに大規模なものは他になかなかありません。この合宿を通した学生フライヤー同士の交流は、これからのハング・パラ業界の活性化につながると感じさせられました。

報告：合宿実行委員長　谷 立樹（関西学生フライヤー連盟）

■夏季大会結果報告

尾神岳パラグライダースチューデントカップ

開催地：新潟県上越市尾神岳
日程：2013年８月20日～８月22日

1st class
１位　齋藤　　亘
２位　藤田　航輝
３位　佐々木優貴

2nd class
１位　小林　操妃
２位　土岐　勇貴
３位　木村　芽衣

open class
１位　糟谷あずさ
２位　小川　春佳
３位　若杉　厚志

nasaS（nasa Student Cup）

開催地：茨城県石岡市足尾山
日程：2013年８月27日～８月30日

Expert Class
１位　前田　哲志
２位　箕谷　将明
３位　安達　琢真

First Class
１位　遠近　崇裕
２位　長屋　智大
３位　加藤　慎也

Second Class
１位　名草　　慧
２位　竪山　瑛人
３位　岩ヶ下 翔平

団体戦
１位　かかってこんかい
２位　P.F.C.（大阪大学）
３位　Flying Chicken（東京農工大学）
３位　Sylph（東京工業大学）

■NEWS

◇今年から学連に、東北大学ハンググライダーサークルと近畿大学ハンググライダーサークル「リッジライダーズ」が新たに加盟しました。共に新しくできたサークルです。今後も空を飛ぶ仲間を増やし続けられるよう精力的に活動していきます。

尾神岳パラグライダースチューデントカップより。

nasa student Cupより。

◇学連のFacebookページを作成しました。大会情報や加盟サークル活動の様子などを随時更新していきます。Facebookにて「日本学生フライヤー連盟」と検索するとヒットしますので、フライヤーの皆様からの「いいね！」をお待ちしています。

学連では今後も学生フライヤーの増加と技術向上に努めていきます。イベントスタッフの派遣等、学連へのご要望・ご依頼がございましたらお知らせください。

担当者（理事長　安田瑛紀）
連絡先：yasuda.e.ab@gmail.com
JSFF HP：http://jsff.org/

JHFからのお知らせ

■デジタル簡易無線機の利用について

JHFは、ハンググライディングやパラグライディングで使用する無線機として、上空および陸上利用に割り当てられた351MHz帯を使用するデジタル簡易無線機の使用を推奨しています。

この種類の無線機は、電波法施行規則による簡易無線局のデジタル化および登録制度の導入に基づき使われているものです。使用に際しては登録手続きと開設届けのみが必要で、免許・資格は不要です。

デジタルなのでクリアな音質で聞き取りやすく、５チャンネル、送信出力1W、防塵・防水性を備えています。

JHF事務局では、販売代理店のご厚意により借用している５台とJHF所有の10台、計15台を用意して、会員の皆様への貸し出しを受け付けています。

貸し出しをご希望の方は、JHFウェブサイトの「デジタル無線機貸出」にある「デジタル無線機貸出依頼書」をダウンロードして必要事項を記入のうえ、JHF事務局宛にお送りください。

■PG教本基礎技術DVD頒布中

197号でお知らせした基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」を頒布しています。

このDVDには、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが２画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレークコー

ドでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

［収録されている実技］

1. 旋回　45度、90度、180度（教本32、64、65頁）
2. ピッチング（63、93頁）
3. ローリング（63、93頁）
4. リアライザーコントロール（94頁）
5. 両翼端折り（94、112頁）
6. フィギュアエイト（108頁）
7. 片翼潰し（111頁）
8. スパイラル（126頁）
9. Aストール・Bストール（126頁）

［価格・入手方法］

領布価格は１枚1,500円（送料込）で、お申込み30枚毎に１枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、スクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

また、パラグライディング教本DVD第２弾「テイクオフとランディング」の編集が完了しました。

収録メニューは……

・機材の取り扱いと準備
・フロントライズアップの基本
・直線飛行
・フロントライズアップ
・リバースライズアップ
・グランドハンドリング
・効果的なライズアップ練習
・テイクオフ
・８の字旋回からのランディング
・場周アプローチランディング
・ランディング

今月中に頒布のご案内を予定していますので、もう少しお待ちください。

■表彰メダルのデザインを募集

ハンググライディング／パラグライディングの競技会やナショナルリーグの成績優秀者にJHFが授与する金・銀・銅メダルのデザイン（１種）を募集します。コンペティターたちの胸に輝く素敵なメダルを考えてください。採用デザインの作者にはQUOカード5000円分を贈呈し、作品をJHFウェブサイトで公表します。

条件：以下３点を満たすこと

◇直径5.6cmの円形メダルに収まるデザインであること

◇各日本選手権、ハンググライディングシリーズ、パラグライディングJリーグ・J2リーグ・アキュラシーリーグ、学生連盟パラ・ハングリーグなどでの表彰に使用するため、ハンググライダーとパラグライダーの両方が表現されていること

◇JHFの英文表記Japan Hang & Paragliding Federation（またはJAPAN HANG & PARAGLIDING FEDERATION）が明記されていること

応募方法：デザインを２MB以内の静止画ファイル（jpgまたはgif）にして、メールに添付送信してください。

送信先 entry@jhf.hangpara.or.jp

応募締切日：2014年１月31日（金）

（製作上の都合でデザインに手を入れることもあるのでご了承ください。）

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器（AED）

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件：消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエアー漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は２週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機（465.1875MHz）。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円／台。申込条件：ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。国際航空連盟（FAI）もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015
東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889
FAX.03-5834-2089
E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

＊賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県在住の方には神奈川県ハング・パラグライディング連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

JHFレポート203号
発行日：2013年（平成25年）10月20日
発　行：公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）
編　集：JHF事務局
印　刷：株式会社美巧社